

図書館だより



no.232

2021(令和3)年9月22日発行

編集・発行 福島県立図書館

〒960-8003 福島市森合字西養山1番地

Te1 024-535-3218

Fax 024-536-4787

<https://www.library.fcs.ed.jp/>

9月展示のご案内

〈企画展〉

「福島イノベーション・コースト構想」

福島イノベーション・コースト構想主要プロジェクトのパネル展示と関連書籍を紹介します。

場所：企画展示コーナー

期間：9/3(金)～10/6(水)

〈ロビー展示〉

「なかむらせつお 色鉛筆の世界」

中村勢津夫氏の油性色鉛筆による静物画・風景画全10点を展示します。

場所：ロビー展示コーナー

期間：9/3(金)～10/6(水)

〈ミニ展示〉

「現代アートとアニメ・マンガの世界」

場所：センターホール

期間：9/3(金)～12/1(水)

「この街で 笑顔で生きる 認知症」

場所：センターホール

期間：9/3(金)～10/6(水)

「雑誌で学ぶ読書の秋

～専門誌でふれあう学びの世界～

場所：館内中央 雑誌展示コーナー

期間：9/3(金)～11/3(水)

当館サービスのご紹介

県立図書館には直接来館することなく、資料が借りられるサービスがあります。ぜひ、ご利用ください。

【受取館指定サービス】

県立図書館の資料を当館ホームページ上で予約して、一部の県内市町村図書館で受け取ることができます。

※県立図書館の利用登録とマイページパスワードが必要です。

【相互貸借】

お近くの図書館で申し込んで、県立図書館の資料を借りることができます。

【資料宅配サービス】

資料を有料で、直接ご自宅にお送りいたします。

☆当館の利用登録は郵送でもできます。

☆それぞれのサービス内容の詳細については、

県立図書館 HP (<https://www.library.fcs.ed.jp/>)

の利用案内をご覧ください。職員までお尋ねください。(お問い合わせはこちらまで ☎024-535-3218)

公式 Twitterのご案内



@fukushim_p_lib

県立図書館公式 Twitter では、展示のご案内や各種お知らせ情報などを紹介しています。

新着案内

各分野の担当者が選んだ、お薦めの新着資料をご紹介します。

人文・自然・社会

『誰のためのテレワーク？ 近未来社会の働き方と法』 大内 伸哉／著 明石書店 2021.5 336.4/枚 215

コロナ禍で急速に進められることとなったテレワーク。あわせて関連するビジネス書も多く出版されるようになりましたが、筆者は本書の目的をノウハウの伝授ではなく、「テレワークはいったい誰のために行うのか、ということをもとから問い直す」ことと述べ、働く側、企業、フリーワーカー、そして社会という四つの視点からテレワークの現在を分析し、そのメリットと問題点を考察していきます。

テレワークについて、ひいてはこれからのわたしたちの働き方について、理解を深める一助となる一冊です。

『産業遺産 幻想と異世界への扉』 黒沢 永紀／[著], 前畑 洋平／[著] 昭文社 2021.5 602.1/枚 215

「産業遺産」という言葉をご存知でしょうか。その定義には諸説あるようですが、経済産業省では、日本の産業の近代化に貢献した建造物や機械などを、「近代化産業遺産」として大臣認定しています。これら産業遺産は、今日の豊かさを築く礎となりました。

この本では、幕末から第二次世界大戦前までの、日本の近代化に大きな役割を果たした施設・設備を、豊富な写真と解説で紹介しています。福島県からは、喜多方の煉瓦遺産や常磐炭田などが紹介されています。

『比べて楽しい国語辞書ディープな読み方 国語辞書ほど面白い遊び道具はない!』 ながさわ／著 河出書房新社 2021.4 813.1/枚 214

国語辞書で言葉を調べるときに、どの辞書を選びますか。もしくは、複数の辞書で一つの言葉を調べたときにそれぞれの辞書の記載の違いに注目したことはありますか。同じ言葉でも辞書に載っている内容が同じとは限りません。本書では、辞書マニアの著者によって、解釈の違い、立項の有無など、辞書によって異なる言葉の事例とともに、国語辞書の違いについて述べられています。多様な辞書を比べることの意義と、言葉の奥深さを感じられる一冊です。

児童・児童図書研究

『建築家になりたい君へ』 隈研吾／著 河出書房新社 2021.2 520/枚

建築を読み解くと、その建築に携わった人たちの考えや思いだけでなく、その時代背景や社会状況等、様々なことが見えてきます。20世紀までの建築の流れは、効率的に生活することのできる「ハコ」でした。それを大きくしていったのが建築の歴史だといえます。

建築家の隈研吾さんが、建築家になったきっかけ、これまでに影響を受けた建築や出会った人々、出来事を振り返り、コロナ以降、これからの建築を見つめます。

雑誌・新聞

コロナ禍での開催となった東京オリンピックは、関係者以外への入国が制限され、ほぼ無観客での開催となりました。そんな東京オリンピックが経済に与える影響について特集されている雑誌をご紹介します。

『Voice 新しい日本を創る提言誌』 通巻 525 号, 令和 3 年 9 月号, Z/051/V1
総力特集: 五輪後の本題

『エコノミスト』 第99巻第30号, 通巻4710号,
2021.8.10・17合併号, Z/330.5/E1
特集: 2021年下期世界経済&マーケット総予測

『経済界』 第 56 巻第 10 号, 通巻 1145 号,
2021 年 10 月号, Z/330.5/K14
特集: 五輪後のニッポン

『週刊ダイヤモンド』 第109巻第32号,
2021年8月21日号, Z/330.5/S7
特集: 五輪後の不動産マンション売りどき・買いどき

『Journal of Financial Planning』
Vol. 22, 通巻240号, 2020.1月号, Z/338/J1
特集: 東京五輪後の景気、国内外の経済、法改正…

地域

『永劫に飛ぶ! 在野の天才哲学者野村隈畔』 武川 和之／著 文芸社 2021.5 L289/N79/1

福島県伊達郡半田村で生まれた哲学者・野村隈畔。今年、彼の没後 100 年にあたります。田舎で百姓の子として生まれながら、哲学を求めて上京した野村。権力を嫌い、一度は思想犯として入獄しながらも、絶対的な自由主義を貫きました。「永遠なる自由と愛」を求めて妻以外の女性と心中するまでの、わずか 38 年の壮絶な人生が描かれています。「自由」とは何かを考えさせられる一冊です。

『YAMMA の服にできるコト』 山崎 ナナ／著 小学館 2021.3 L589.2/Y1/1

「YAMMA」とは会津木綿を使った、ヤンマ産業のアパレルブランドの1つです。在庫を持たず、展示会で直接お客様にサンプルを見せてから作る、完全受注生産。縫製を担うのは、近所のおばあちゃんたちです。ヤンマ産業のコンセプトである「長い間着られる服づくり」を目指す中で出会った会津木綿は、丈夫で素朴な風合いが魅力的な伝統工芸品である一方、織元が2軒しか残っていない現状がありました。突然起こった織元の廃業の危機を乗り越え、「YAMMA」の服をつくるまでを、デザイナー・山崎ナナが語ります。